

図書館たより

号数 第 39 号
発行日 昭和53年7月20日
編集行 島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852)22-5275
印刷 旬高浜印刷所



社会教育活動の図書のをせて市内を駆け回る「ちびっこ玉手箱、号(大田市)

社会教育活動に図書の利用を

図書館の仕事は、一言でいえば、「図書による住民サービス」ということであろうが、このサービスを県内全域にくまなく行き届かせることは、県下の全図書館がどう踏ん張ってみても遙か遠い目標である。昨年発行した「島根県公共図書館白書」でも分析しているとおり、本県における図書館活動は図書館の数自体が少ないところをもってきて、既設館の諸活動も全国的レベルに比べると充分とは言い難い状況である。特に館外貸出の面で、数年前からかなり見劣りする状態が続いていることは、甚だ残念である。

「図書による住民サービス」を徹底して行なうには、まず第1に館外貸出を伸ばすことに力を注ぐべきであろう。県立図書館としては、市町村の各種の読書施設の貸出活動強化のため必要な援助を行なってきたり、また多くの市町村の図書館では、巡回文庫の開設、配本所網の形成、読書会の開催等貸出強化や読書普及についての努力がなされている。

しかし、図書館サイドのこうした努力には限界がみえていような気がしてならない。図書館側の努力に加えて、各種の社会教育事業に図書を取り入れて推進することによって、この壁をこえることはできないものであろうか。現に読書活動の活発な地域をみると、公民館、幼稚園、保育所、小学校等をセンターとして社会教育の諸活動の中に「図書」をがっちり取り入れることによって読書を普及し、定着させたところが多い。

そこで、この春以来、県の社会教育課とこの問題について協議を進めてきたところ社教関係者も十分に理解し本腰を入れてくれることとなり、これからあらゆる機会を捉えて社教事業と読書活動とを結びつけて行くこととなった。だが、こうした活動の推進は、県の段階でどのように声を大きくしてみても、それだけではどうなるものでもない。それぞれの市町村のそれぞれの地域、個々のグループでのもろもろの活動の中に、ほんの少しずつでも常に取り入れて行く努力が積み重ねられてはじめて成果が挙がってくるものである。

県下の社教事業関係者が積極的に図書を取り上げることによって「一人でも多くの人が一冊でも多くの本」に親しめるような土壌を造ってほしい。県立図書館としては、それに必要な本の貸出、指導者の養成、派遣等に積極的にサポートする体制を整備して行くので、大いに活用して頂きたい。

島根県立図書館長 林 暁 二

県下にひろがる

「古文書を読む会」(六)

伯太町の巻

伯太町は松江藩の支藩であった母里藩によって、治められていた地域であり、旧母里、井尻、安田、赤屋村が合併して発足した町であります。

母里藩にかかわる古文書や、それ以前の文書や、史跡等については旧村時代より研究され、この方に関心が強く、造詣の深い方も沢山おられ、郷土史も旧村それぞれに作られていましたが、合併後は伯太町史も編纂されました。

50年3月には町に民俗資料館も竣工、開館され、それまで各家に所蔵されていた貴重な資料が、広く一般に公開されるに至り、郷土を、我が家を見直す目を一段と高められました。然し残念乍ら、これらの古文書を読むことのできる者は、伯太町内には極めて少ない現状であります。たまたま県の図書館で開かれていた、「古文書を読む会」に伯太町から4名が参加し指導を受けていました。が、母里藩には母里藩の文

書があるかも知れない。まだ日の目を見ないでいる文書があるかも知れない。我々だけでどれだけ読めるのか。どれだけ文書を見出すことができるかわからないが、同好の士に呼びかけて伯太町内のものを見てみようではないか。それが民俗資料館の充実、皆さん方の参考にもなれば幸せではないかというので、県立図書館の「古文書を読む会」に参加されていた、運崎氏を先達とし、民俗資料館の梶谷学芸員が資料の方面を担当し、母里公民館の足立主事を世話係として私設「古文書を読む会」を開くことになりました。

51年3月25日「雲州母里御藩文武法」をテキストとして第1回を開会し、以後大体月1回、会員8~10名程度の出席者で読みつけて来ました。その後、テキストにしたものは、藩政時代の母里騒動などを書いた「雲州橘之巻」。本柴田家(柴田午朗氏)所蔵の「御觸書写被仰出留日記」。十年齋齊木社家文書等でした。

このようにして約2ヶ年間、有志の者による指導者なしの相互学習の形でおしすすめ、難解字句はお

互いが頭をひねりあい、又それでも解読できない場合は県立図書館の先生をお願いして解読してきました。然しこのような形では大変不便であり、一方町内に古文書を学習したいという人がだんだん多くなってきました。そこで教育委員会に、成人教育の一環としてとりあげていただくことになり、伯太町内全域より会員を募集し、今年の5月より発足したのであります。

講師としては県立図書館の御理解により、その方面の権威者である桜木先生に毎月来ていただいて、直接熱心な御指導を受けることができることになりました。

5月27日に30数名の会員の参集を得て、第1回「伯太町古文書を読む会」を開き、テキストは桜木先生に選んでいただいた「五人組前書」を使用し会員は目を輝かして受講しました。

第2回は6月24日に行ないましたが、この日も多数の出席があり、このぶんであれば最後(3月)まで脱落者もなく行なうことができるであろうと、自信をつけているところであります。

古文書は伯太町内にも未だかなり沢山所蔵されていると思われます。郷土の先人の足跡を探究し、または発見という面でも、町内に古文書学習熱の輪が広がり、それが深められてゆくことは、誠に喜ばしい限りであります。

どうか、今後共県立図書館の温い御指導を頂き、発足してまもない我々の歩みが更に根を下し発展して行きますよう切にお願いして筆をおきます。

(六月分テキスト)

主催者(世話人)	伯太町教育委員会
定例日	毎月第3土曜日・午後2時より4時まで
会場	伯太町中央公民館
講師	県立図書館 桜木 保先生
経費	会員会費 月500円 町費補助有り
会員	32名 (年間固定制) 男28名 女4名 平均年齢58歳
テキスト	桜木先生に選んでもらい、伯太町でプリントする。

(文責 門脇莞爾)

江津市立図書館における 移動図書館

我が図書館の規模は、昭和48年に開設され、暦も浅く、蔵書冊数は、約16,000冊（児童書 4,000冊）。職員数 4 名。利用状況は、登録者数 2,110人、貸出冊数29,500冊（昭和52年度実績）という現状です。立地条件としては、ほぼ市の中央にあり、人口28,000人の小さな規模のものです。

移動図書館を始めた経緯は、

- 1、辺地サービス（館より遠方地域の利用度の悪さ）
- 2、新設図書館のPRのため
- 3、図書館の組織作りを決定する要素

……を解決する目的です。しかし移動図書館の進展は、図書館だけの努力で実ったものではありません。子供たちに1冊でも多くの本をと願うお母さんたちの声、学習する権利としての図書館要求がこれを押し進めてきました。そして、それに応えるために

私たちはいかなる手段でも利用者の手許へ本を届けようと



（喜ぶこどもたち）

努力しています。

この移動図書館も、短期の運営計画のため誠に微々たるものです。市役所の車（バン）に約 300冊の木箱につめ、小学校、公民館の小部屋を借りての開設です。事前に半年分の計画書や、有線放送を流し、駐車時間は1ヶ所約2時間をあてています。1人3冊まで、貸出期間は1ヶ月を原則とし、貸出手続も至って簡単で、すぐにでも持ちかえりができます。

現在、途中の新設も含めて4つの小学校、3つの公民館を巡回しています。待ち構えている子供たちのはずんだ声を聞くと1冊でも新しいたぐさんの本を読ませたい気持で一ぱいです。一方、子供たちの本の選び方も上手になりました。ちゃんと自分たちにあったものを借りていきます。その光景はさまざま

まのようです。

「水泳の本持ってきてください。」「昆虫図鑑をお願いします。」と巡回日前日に電話もあります。「この作者の他の作品を……」とか、「社会科で平安時代を習った

から……」とか、「科学のアルバム」の「きょうりゅう」の本を1人がリクエストすると「ほくも！ほくも！」と2・3人が一斉に注文します。このように現地では、館の中ではなかなかつかめないなまの声が響いて、それが私達の意欲をかきたてます。しかし、この中で次のような問題点がでてきました。

- 1、公民館の係の交代による活動の変化
- 2、専用車の必要性
- 3、図書資料不足（新しい図書の必要性）が考えられます。資料不足の点は、島根県立図書館の協力を得て不足図書の借入をして補っています。

しかし苦しい諸条件の内ではありますが、利用者の要請に答えるべく理想的な移動図書館をめざし、対象地区の計画的増設はもちろん、図書購入費の増額を要請し、リクエスト、その他、利用者の便宜を図りたいと思っています。

移動図書館の意義は、できるだけたくさんの人たちの身近かに本をとどけること、つまり原点にかえってのサービスにあると堅く信じる次第です。

ユニークな活動を中心に

県下読書施設の横顔(1)

図書購入予算額

昭和52年度 1 0 0 万円（本館・BMの）
昭和53年度 1 5 0 万円（区別なし）

年間延出動日数 6 0 日

乗 員（運転手を含む） 3 名

配本所及び利用者と貸出統計（52年度）

配本所名	登録者数	年間貸出冊数	図書リクエスト数
跡市小学校	110名	2000冊	3冊
黒松小学校	70名	1100冊	29冊
有福小学校	70名	250冊	34冊
都治公民館	地区民 全員	（配本のみで 確かな貸出 冊数はわか らない。 約 700冊）	0冊
有福公民館			7冊
貸出制限		1人3冊 1ヶ月	
巡回予告広報手段		有線放送及び市広報	

図書センター制度 ～

4年目を迎えて～

図書購入予算

特筆すべき第一点は、石見町において、100万円の予算が、計上された点である。これは、町立図書館設置4町のうちの、第一位の木次町立図書館に次ぐものであり、石見町の勇断に敬意を表したい。このことがあり、図書センター設置町の平均図書購入予算額は、前年の32万円から昭和53年度は42万円（人口一人当平均70円）に伸びた。従って、昭和54年度の図書購入予算額は、これを更に上回るよう期待したい。

購入された図書

各センターの平均購入冊数は270冊であり、詳細は次頁の通りである。しかし、毎年次、この程度の冊数では、住民一人当り1冊の確保にはほど遠い。高価な辞典、図鑑等の参考図書は、最低限必要なものを早急に備え、児童書、娯楽書、実用書等で数の充実をまず図った方が良いのではないかと。なぜなら、沢山の図書の中から好みの1冊が選べるということは、住民を図書室に魅きつける重要なポイントだからである。また、購入図書は業者の売り込み本や、選び易いシリーズもので妥協するのではなく、利用者を常に念頭においた選定方法を採らねばならない。

利用状況

児童書の利用が全利用冊数の62%を占めており、この指数は重要な示唆を含んでいる。やはり、購入図書にこの現実を反映させるべきである。

管内における配本活動

各センターとともに3～6ヶ所の管内配本所を設置。交換周期は3ヶ月。150～300冊の配本が平均である。配本先は地区公民館、学校が一般的であるが、企業、民家、農協といった例もある。配本活動で一番重要なのは、交換日を正確に守ることである。

職員

日原町に大庭良美氏、佐田町に藤原綾子司書、横田町に松崎和枝司書とそれぞれに配置され体制が整いつつある。専任者の有無は貸出業務や図書選定にとって、重要な意味を持つものであり、他センターの追従が期待される。

公共図書館への移行

図書センター制度は本来このことをねらいとしている。これは、もちろん設置条例に基く設置であるが、独立の建物でなくてはならないというものではない。しかし、これには、専任職員の問題など種々の障害があるだろうが、この障害は、現在おかれている地域社会の停滞をくい止め、活発な住民エネルギーの高揚を図るために、是非、乗り越えてほしいものである。知的欲求を満たすための読書環境を老若男女を問わず、求めていることは確実である。各町関係者のご尽力を期待したい。

各センターで購入されたおもな参考・郷土・シリーズ図書

- | | |
|-----|--|
| 石見町 | 姓氏家系大辞典 新日本分県地図 因伯民談 人物日本の女性史 探訪日本の城 解放教育新書 日本の伝説 日本古典全集 土とふるさとの文学全集 日本の美術 |
| 仁摩町 | 出版年鑑 石見国名所和歌集成 スポーツルール大辞典 詳解名蹟碑帖大成 広報版レイアウト 実例集 実用カット集 水墨美術大系 |
| 広瀬町 | 標準原色図鑑全集 語りつぐ昭和史 子ども日本風土記 |
| 瑞穂町 | 標準音楽辞典 日本を知る事典 |
| 匹見町 | 標準原色図鑑全集 匹見町史及び石見・匹見民俗 |
| 日原町 | 日本児童文学大系 |
| 赤来町 | 原色昆虫大図鑑 |
| 佐田町 | 日本民俗芸能事典 |



昭和52年度 図書センター分類別利用状況と図書購入内訳

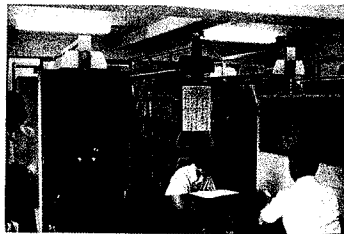
設置町	分類別利用状況(現地における個人貸出)												購入図書内訳							
	総記	宗哲	歴地	社科	自科	工家	産	芸	スポ	語	文	児	計	児童	文学	辞	図	係	そ	計
		学	史	会	然	学	業	術	ッ	学	学	童	(配本冊数)	書	書	典	土	他		
石見町	10	44	43	116	96	92	51	77	40	646	1,836	3,051 (2,500)	59	64	25	4	156	308		
仁摩町	20	14	31	33	26	54	28	105	10	651	1,228	2,200 (2,500)	53	37	25	10	17	142		
日原町	32	46	79	87	52	67	29	100	27	771	1,637	2,927 (2,500)	223	177	7	16	124	547		
匹見町	25	7	10	76	45	152	16	296	4	1,011	1,698	3,340 (2,500)	256	100	20	1	3	380		
赤来町	49	49	59	72	82	90	85	101	63	703	1,216	2,569 (2,000)	42	250	6	-	1	299		
佐田町	25	42	41	60	40	56	38	52	4	665	458	1,481 (2,000)	20	22	11	4	67	124		
瑞穂町	36	32	21	29	40	40	18	120	4	601	1,935	2,876 (2,000)	75	59	16	20	8	178		
広瀬町	5	9	3	10	69	39	8	55	6	172	4,792	5,168 (1,500)	161	27	25	25	7	245		
旭町	6	15	21	17	22	11	12	28	1	182	307	622 (1,500)	90	69	4	10	30	203		
計	208	258	308	500	472	601	285	934	159	5,402	15,107	24,234								
%	0.9	1.1	1.3	2.1	1.9	2.5	1.2	3.9	0.7	22.2	62.2	100								

昭和53年度

設置図書センター

—横田町コミュニティセンター図書室—

1. 設置場所 横田町コミュニティセンター
2. 担当者 勝部 正(館長) 松崎和枝(司書)
糸原正徳(教育長) 三成輝夫(社教主事) 小川敏子(社教指導員)
3. 貸出時間 8時30分～17時
4. 休室日 毎週月曜日、祝日の翌日、資料整理期間(年間5日・2回)
5. 図書購入費 45万円(当初)
寄贈額 10万円(予定)
6. 横田町の輪郭 昭和32年9月、旧横田・鳥上・八川・馬木の4町村が合併して横田町となる。
5月末世帯数 2,335、人口男4,506人、女 4,841人、計 9,347人。町内に高校・中学校各1、小学校・幼稚園・公民館各4がある。
7. コミュニティセンター 昭和52年9月、町合併20周年記念事業として、町民対話の場、生涯教育学習の場として建設。図書室の設置については、特に若い世代からの要望が強く、また横田地区の市場共有組合から、図書資料購入費 300万円の指定寄付があったことによる。
8. 図書室の規模 東採光、冷暖房完備、面積60㎡



(図書室)

- カウンター、6人用机5台、片面書架10基、両面書架12基、(1万冊収容予定のスチール製書架)
9. 蔵書冊数 52年度は前記 300万円と金利その他で、385万円で 2,465冊購入、県立図書館から1,000冊の特別貸出をうけて運営。53年度は55万円で 550冊購入予定、それに図書センターの設置をうけて 3,000冊、約 6,000冊で運営。
 10. 特色 資料の購入にあたっては、
イ. 寄贈の厚志を永く残したい意図から禁帯出扱いの参考図書が多い。

- ロ. 諸橋大漢和辞典、大槻大言海のごとく権威のある図書。
ハ. 「出雲」鉄(毎日新聞社発行)のごとき、いずれも35,000円で、個人では購入が容易でない豪華本。
ニ. 高齢者にも利用してもらいたい意図から目で見ると美術全集、写真集等。

に重点をおいている。

- なお町誌編集刊行の際借用した町内外の全資料を、コピーしてロッカー4箱分所蔵している。
11. 展望 町民1人1冊を目標に早く1万冊を揃えること。鉄・算盤を中心に郷土コーナーを充実したいこと。子供の本を多くして、子供の頃から読書の習慣、たのしみを身につけさせたい。そして近い将来、独立した図書館建設の実現を期したい

(糸原記)

図書館・関係国庫補助事業一覽

社会教育の分野には、国の補助事業がいくつかある。その中で、図書館に關係のあるものを、県社会教育課の協力を得て、以下に紹介する。市町村の読書普及活動促進の上で、大いに参考にしてもらいたいと思うこと切である。

※ 図書館対象補助はいずれも図書館法の規定の適用となる。

事業名	内 容	補助対象経費	補助額	実施市町村	
				52	53
1. 公民館活動 (対象) 地方公共団体	公民館に図書を備え、母と子を対象に図書の貸出し、読書相談、読書会等を行う又は、文化、創作等公民館事業の開発を行うグループ(20人以上、20時間以上)を育成する事業。	謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、会議費、備品費、借料及び損料、委託費(但しつき)	対象経費の1/2以内の定額 20万円～ 100万円 (150万円)	松江、東出雲、大石見	松江、東出雲、横田、木次、出雲、大田、石見、美都、西郷
2. 図書館活動 (対象) 地方公共団体	図書目録・読書指導資料等の作成、配布読書指導等図書利用に関する相談や研修の実施、専門講座の開催、自動車等による巡回文庫資料の整備、又は点字図書・盲人用録音テープ等の整備を行う事業。			ナ	シ
3. 婦人ボランティア活動 (対象) 地方公共団体	婦人の能力を開発し、社会参加を促進するためボランティア活動について学習する婦人ボランティア育成講座及び派遣する事業。	諸謝金、旅費、外上穴と同じ	定額 10万円～ 75万円	出雲市	仁多町
4. 視聴覚ライブラリー教材充実実費補助 (対象) 市町村	視聴覚ライブラリーの育成を図るため、視聴覚教材を整備するのに必要な経費の一部を補助する。	教材映画の購入費	1/2以内定額 60万円～ 300万円		
5. 教育機器整備事業 (対象) 地方公共団体	公民館・図書館・博物館・婦人会館外社会教育施設の機能の改善充実を図る教育機器を整備する事業。	別表に掲げる設備品目の購入費	1/2以内定額 50万円～ 250万円		
6. 巡回活動促進設備整備事業	図書館、視聴センター・ライブラリーが巡回活動により、広く地域の指導の展開を図る巡回用自動車又は教材運搬車を整備する事業。	巡回用自動車、視聴覚センター・ライブラリーの教材搬送車購入費			

重度身体障害者のための 図書郵送利用ご案内

郵送による図書の貸出制度は、昭和49年にスタートし、身体障害者の方や県立図書館を直接利用できない地域の方々に利用されています。

今年度から重度身体障害者の方につきましては、郵送料が書籍小包料金の半額を負担すれば良いことになりましたので、ここにご案内いたします。

1. 利用できる者は次の要件をみたしていることが必要です。

- (1) 県内に居住する者、又は県内で勤務もしくは在学する者。
- (2) 重度身体障害者。

ここでいう重度身体障害者とは、身体障害者福祉法による身体障害者手帳又は戦傷病者特別援護法による戦傷病者手帳の交付を受けている者のうち、次表の公職選挙法で郵送による不在者投票が認められる程度の者をいいます。

	身体障害者手帳	戦傷病者手帳
両下肢・体幹	1級もしくは2級	特別項症から第2項症まで
心臓・じん臓・呼吸器	1級もしくは3級	特別項症から第3項症まで

2. 登録の手続

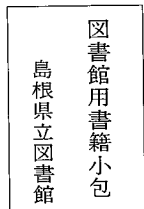
- (1) 氏名・生年月日
- (2) 住所・電話番号・郵便番号
- (3) 勤務先又は学校名
- (4) 身体障害者手帳番号(戦傷病者手帳番号)と、障害程度等級数を明示して申込む。(電話も可)

3. 冊数と期間

原則として3冊(2kg)まで。発送の日から30日間。

4. 送付の方法および送料の負担

- (1) 送付方法——図書の発送、返却は身体障害者用書籍小包で行ない、当館使用の封筒を利用する。県立図書館から送付した票付(右図)を封筒の表面にはりつけて、返送します。



- (2) 送料の負担——返送に要する費用は、下記身体障害者用書籍小包郵便物料金表によって負担して下さい。(普通書籍小包料金の半額。2kgを越える場合は、普通小包扱いとなり割引きされません。)

なお、発送に要する費用は、県立図書館が負担します。

重さ(g)	250	500	1,000	1,500
	料金円	250	500	1,000
身体障害者用書籍小包料金	60	80	100	120

5. 申込み先

松江市内中原町52 〒690

島根県立図書館資料課奉仕係(メール制)

電話 (0852) 22-5734

島根県郷土関係出版目録選

昭和
52-53

近ごろ、郷土関係の出版がさかんになりましたが、その多くは個人や小出版社、あるいは公共機関の刊行のため、私たちにはなかなか情報がつかめません。そこで今回、県立図書館が収集したもののうち、比較的入手し易いものを選んでみました。

	書名	編著者	出版社	価格
島根一般	探訪日本の城 7 - 山陰道一	日本アートセンター編	小学館	1,800
	近代島根の展開構造	内藤正中編	名著出版	4,500
	(事件を追って)戦後島根の軌跡 第2集	西尾忠良編著	松江写真植字社	1,700
	島根儒林傳	谷口廻瀾著	飯塚書房 (復刻版)	7,000
	(島根県中学校)教育30年史	島根県中学校協会編刊		非売品
	(山陰歳時記)ふるさとの四季	漢東種一郎・遠藤仁誉著	山陰中央新報社	1,500
	ふるさと再見	山陰民俗学会編	山陰中央新報社	1,800
	出雲隠岐の伝説	石塚尊俊編著	第一法規	900
	続島根県医家列伝	米田正治著	報光社 (松江文庫4)	1,300
	島根の味-味のふるさとに-	樋口清之等監修	角川書店	680
出雲	島根県農会の郷土誌 1	安部憲吉編	報光社 (資料双書1)	1,500
	島根の近代美術	枝野 茂著	報光社 (松江文庫3)	1,300
	島根の演劇-人と歴史-	池野 誠編著	松江市民劇場	2,000
	出雲の神々-古代の旅-1	谷川健一著	平凡社	550
	国譲り神話の周辺	島山兼人著	溪水社	1,500
	出雲・大和の民俗と火の神	石田隆義著刊		2,000
	出雲の歴史	速水保孝編著	講談社	3,800
	島根郷土史ノート	藤岡大拙著	山陰中央新報社	1,200
	大塚史談-安来の歴史11-	井塚 茂・松本 興著	安来タイムス社	1,500
	月山史談	妹尾豊三郎著	広瀬町観光協会	非売品
石見	松江交通物語	内田兼四郎編著刊		1,150
	尼子裏面史	岡崎英雄著	島根県教科図書販売	1,500
	出雲学論放	神道学会編	出雲大社	非売品
	カラー出雲路の魅力	藤岡大拙文・川本貢功写真	淡交社	2,000
	(広瀬藩儒)山村勉齋覚書	山村良夫著	飯塚書房	3,500
	(鉄と取り組んだ人生)砂鉄のうた	小藤弘光著	小藤喜久生	
	川本町誌-歴史編-	川本町誌編纂委員会編	川本町教育委員会	非売品
	旭町誌・上巻	旭町教育委員会編	旭町役場	
	鳥井町史誌	細田弥三編	明福会	
	大田碑石散歩	三谷 晃著刊		
石見の郷土史話 上巻	山根俊久著	石見郷土研究懇話会	2,500	
美しい村-民俗探訪記-	牛尾三千夫著	石見郷土研究懇話会	2,300	

島根県三瓶山麓民話集
山陰の釣り一石見海岸編一
日原の文化財と伝説

島根大学昔話研究会編刊
山陰中央新報社編刊
大庭良美著

2,000
650

隠岐

(海士町) 崎部落誌
(隠岐が生んだ明治維新の先覚者)中沼了三
隠岐一島嶼経済の構造と変貌一
隠岐島前の民話集
隠岐島の伝説

崎郷土史研究会著刊
中沼 郁著
田中豊治著
島根大学昔話研究会編刊
野津 龍著

日原町教育委員会
中沼了三先生顕彰会
ぎょうせい
鳥取教育学部

650
1,000
5,500
1,000

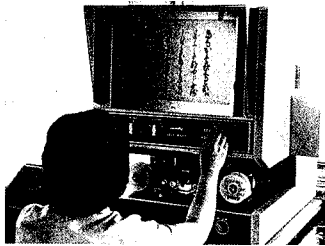
マイクロリーダープリンター機入る

昭和53年度予算により、今度待望のリーダープリンターを本館に設置しました。これは、マイクロフィルム(本館所蔵フィルムは下記のとおり)を閲覧するだけでなく、必要な記事を拡大し、それを複写することもできるものです。(複写利用料金はA3サイズ1枚50円です)またネガ・ポジの両フィルム共利用できる便利な機種で、これから大いに活用されるものと思います。

なお、従来新聞閲覧は現物を利用いただいていましたが、今後は山陰新聞および松陽新聞の昭和23年12月までについては、①現物の永久保存②本館所蔵のものに欠号が多いこと等の理由により、現物閲覧は中止いたします。

本館所蔵のマイクロフィルム

- 山陰新聞(島根新聞、山陰新報) 明治15年5月～昭和23年12月まで
- 松陽新報 明治43年7月～昭和16年12月まで



以上のフィルムは本館で所蔵している新聞と国立国会図書館、島根大学附属図書館の3館共同で、それぞれ欠号分を補いながら作成したものです。従ってこのフィルムは現在これ以上そろえることのできないものです。

- 朝日新聞(島根版) 大正4年～昭和35年まで
- 鰐淵寺文書 460点
- 雲州松平家文書 藩祖御事蹟、列士録等 160冊分
- 島根県統計書 明治6年～昭和20年まで(欠 明治7、11、16年)

寄贈図書

ご惠贈ありがとうございます

野鳥を見に行きませんか 松江市 内田 映
木村義男素描集 松江市 橋本 吟次郎
自然食の秘密 松江市 田中 俊夫
過去は美化される 益田市 湯浅 浩一
旭町誌(上巻) 旭町 旭町誌編纂事務局
癒えゆく日々 広瀬町 金津 敏夫
尼子裏面史 松江市 岡崎 英雄
島根県警察史 明治・大正編 松江市 県警察史編纂係
松江一中三十年史 松江市 松江市立第一中学校
淑女画報等 松江市 寺本 喜徳
一枚の地図 大阪市 難波 利三
あの頃の子供達 松江市 野津本 吉郎
雲南の灯・荒野 木次町 加藤 キミコ
島根半島の陸産貝類目録 境港市 中島 良典
ママ、この本よんで 大田市 大田市役所

ヘンリーくとアバラー 松江市 伊藤 逸之
大田碑石散歩 大田市 三谷 晃
中沼了三 松江市 中沼 郁
弓浜民談抄 境港市 佐々木 謙
写真集 街角 江津市 千代延 論
ふるさとの歴史と伝説 益田市 石川 寿保
楽山焼元祖、倉崎権兵衛の子孫(松江 今昔シリーズ3) 松江市 内田 兼四郎
千家元麿詩集 松江市 益井 哲朗
概観 東洋通史 松江市 速水 保孝
隠岐島前の民話 海士町 酒井 董美

人事異動

- お世話になりました。
館長 目次安茂(昭和53年3月31日辞職)
総務係長 柴田英夫(県出納局へ)
- よろしく願います。
館長 林 晄二(県総務部より)
総務係長 神谷 勲(県同和对策課より)